

科研費・基盤研究A「天文学との連携にもとづく考古学・考古史学研究法の構築」(19H00544)
の「日本固有の星名に関するフィールド調査・沖縄県宮古島」の研究成果報告書

北尾浩一

(1) 宮古島（池間島、伊良部島、来間島を含む）で確認された「日本固有の星名」に関する天文民俗学的データ

①大神島（8月20日（火））

●A1さん（昭和6年生まれ、大神島出身）

A1さんは、ムリプス、ニヌファプス、ナガリプスを伝えていた。星のことをプスと呼んでいた。

②池間島（8月20日（火））

●A2さん（昭和8年生まれ西里勇さん、池間島出身）

宮古島市池間島水浜公民館の前にて聞き取り調査。アカフナイ、ニノハブシを伝えていた。

●A3さん（昭和2年生まれ、池間島出身）

宮古島市池間島水浜公民館の前にて、聞き取り調査。次のような星名を伝えていた。

- ・アカフナイフツブシ（アカフナイフツブシ）：明けの明星
- ・ユーファイフツブシ（ユー：夕飯、ファイ：食べる）：宵の明星
- ・線香でもやして時間を知って、星をまとして、石垣島へ行った（と聞いている。経験はない）
- ・ネノハブシ、うごかない：北極星
- ・ニイーカゼ 北風 ・サイノハカゼ 西風

●「わが池間島」の著者「伊良波盛男さん」（池間島出身）の話

- ・明けの明星

アカヌナイフツブシ、シャーカヌフツブシ（シャーカ：早朝）（フツブシ：大星）

- ・宵の明星

ムヌファイフツブシ（ムヌ：ごはん）（ファイ：食べる）（フツブシ：大星）

ユイ ファイ フツブシ（ユイ：夕飯）（ファイ：食べる）（フツブシ：大星）

③来間島（8月21日（水））

●宮古島市来間島（くりまじま）（昭和16年生まれ、女性、来間島出身）

- ・ネノプスもいう。
 - ・南、ウマノパノフス
 - ・西 サウノパノプス
- （かみのおばあ（つかさ）、ユウジャスを紹介してくださる）

●宮古島市来間島（くりまじま）、B1さん、（昭和7年生まれ、女性、ユウジャス、来間島出身）

- ・星をプスという。めあてに方向を定めてという歌ある。親は長男をめあて、船は北斗七星めあて。ニヌファブシ ニ 北
- ・西 ユージャス、東 つかさ
- ・星をプス。
- ・ニヌファブシ
- ・ストウムティブシ 朝の星（ストウムテ：早朝）（明けの明星、シャーカプスとも言う）
- ・シャーカプス出るから早く畑に行く準備をしな（と言われた）（明けの明星）（シャーカ：明るい）
- ・ンミブシ（ンミ：群れ、星がいっぱいつまっている→ンミブシ）（いっぱいある。したがって、プレアデスのもではなく、プレアデスもまた、他のいっぱいあるのもみなンミブシ）

（B1さんの話）

「ニヌファブシは北斗七星だよ。むかしは船、あの星をめあてにする。ニヌファブシ。プスともいうさ。星のことをプスともいうし。あれをめあてに船は方向を定めていったという。うたにもあるさ。親は長男をめあて、船は北斗七星。ニとは北」

「ウマのファと言ったら南側。南側の星を言うのではない。南のほうにある星はみなウマノファブシでないか（笑）トラノハは東。（ふし）トラノハに見えるさ（笑）サルノファという（西）。サルノファ」

「朝の星はストウムティ。ストウムティブシと言うんだよ。朝の星は」

●宮古島市来間島（昭和14年生まれ、男性、B2さん、来間島出身）

- ・ティンパウ 竜巻
- ・ニノハプス プス 星 北斗七星。ゆるはらす ニヌハブシメアテ
- ・いま、来間169人（うち 130人 来間の人 65以上78人）

④伊良部島（8月21日（水））

- 宮古島市伊良部島佐良浜（さらはま）（昭和17年生まれ、B3さん、佐良浜出身）

（写真右 伊良波漁港でB3さんに聞く）

- ・ニノファブシ ひとつの星



⑤上野村（8月22日（木））

- 宮古島市上野村宮國（大正4年生まれのC1さんの長男、C2さん、昭和21年生まれ、上野村宮國出身）

・ニノパプスという。北極星のこと。だいたい動かない。ニノパプスだけは、父親（恵勇さん）から聞いていた。

（1980年代に実施したアンケート調査で星名を伝えていた平良恵勇（たいらけいゆう）さんは20年くらい前に亡くなられた。）

⑥宮古青少年の家（8月22日（金））

- 宮古青少年の家（安慶田昌宏所長、昭和14年生まれ）

- ・ニノファプス プス 星
- ・ウヤキプス 聞いたことがある。富を与える星？

⑦宮古島市総合博物館（8月22日（金））

- 宮古島市総合博物館（平良恵栄館長、平良研三補佐）
平良研三補佐の話（下地出身）

- ・ムリプス
- ・ウヤキプス聞いたことがあるが、どの星かわからない

⑧宮古島市久松漁港荷川取（8月22日（金））

- 宮古島市荷川取（東仲間在住 C3さん、昭和11年生まれ 仲間出身）

「北斗七星、昔のひとは、ニヌパプスめあてに航行してたよ。船走らせて」

この辺の人 プス 離島 伊良部、佐良浜 プス、ブシ

父親が石炭を石垣から伊良部までは船で運んだ。そのとき、ニヌパプスめあて。

北斗七星をここの人は、ニヌパプスめあて。（北尾注：北極星と北斗七星の混同は頻繁にあ

る)

⑨宮古島市久松地区（11月20日（水））

●D1さん（昭和25年生まれ、松原出身）

父親、年上から聞いた星名は、ニノファブス、ユーアキ（夜明け）ブス（星）、ムリブス（群れてるかたまり）（ひとつかいくつもあるのかははっきりとしない。特定の星とは認識していない）である。

●D2さん（昭和5年生まれ、松原出身）

「ニューハブス、北の方」「ウマノパプス、4つ小さな星かたまって。ウマノパプス4つあると思う」「大きな星ひかる。ウプラウサギ、あがず（東）に出る」と記録。ウマノパプスについては、南十字を意味した可能性がある。ウヤキブスは伝承していない。

●D3さん（昭和14年生まれ、父親は松原出身、父親の仕事の関係でポナペで生まれる）

「おやじがウヤキブスに夜明け手をあわしていた。ウヤキブスといって夜明けに手をあわして。あやじなんかやっていた。ウマノファブスとウヤキブスはいっしょ」と記録。朝早くひとつ光っている星がウヤキブスであり、ウヤキブスは南十字を意味しなかった。

●D4さん

南十字、三つ星と書かれた拝所について、「久松五勇士の階段を作ったために、神様の通るところがふさがれてしまった。苦しい苦しいと神様が言っていた。そこで1万円ずつ（2万だした人もいた）だして作った。星の神様の居場所だった」と聞く。

●D5さん（ユタ）85，6歳

松原のほうの人でなければ詳細わからない。南十字と三つ星（みつぼしと発音された。ミツブスでなく）を祀っている。



南十字、三つ星と記入された拝所



北の階段が神様の通り道をふさぐ



南の神様の通り道



南東のほうの神様の通り道

⑩池間島（11月21日）

●「わが池間島」の著者「伊良波盛男さん」（池間島出身）の話

- ・ティンカイヌーインツ ティンカイは天界ではない。「カイ」は、「に」「へ」という意味。ティンカイは「天に」「天へ」という意味。天の川は言わない。「ヌーイ」は「のぼる」。「インツ」は「道」。天にのぼる道。西のほうへ（死者のいるところ）へのぼる。こどもころは、一周道路もなくて怖くて行けなかった。
- ・ティダガナス 太陽
- ・ユイティダ 月
- ・ユイ 夜 ユイティダ 夜の太陽 女神（太陽は男神、月は女神）
- ・山城メガサラ ユタ むぬす（ものしり）である母親から伝え聞いている
- ・池間島まーづみか、池間ではニーリと言わずにアーグという

⑪伊良部島佐良浜（11月21日）

●伊良部島佐良浜、E1さん（昭和25年生まれ 池間前里出身）

・にのふあぶし（ふすといわなくて）。むかし、多良間は昼間の航海。なにも見えなくても多良間のテレビ塔がやがて見えてくる。

（むかしは夜、那覇とか西表とか言ったのだろうと

いう話はでるものの具体的伝承は伝え聞いていない。宝山（ほうざん）まで行くと何も見えない。パヤオ漁法）

- ・シャーカのあのほしを…と言った。（シャーカという星の名があるわけではない。もちろ



ん、シャークブシ、シャークプスなどの名はない) 東のほうに出る。シャークがわかる。
・満月、魚は食わない。14～17くわない。月の出より夜明け前つれる。

⑫宮古島市保良(11月22日)

●宮古島市保良E2さん(宮古島東原(あがはら)出身、大正15年生まれ、93歳)(おくさん昭和4年生まれも話に加わる)

・プスという ニノファプスめあて

・シャークブス 夜明けるとらのはから。シャークブス シャーク 夜明け(佐良浜と違い、シャークブスは未明の星。星の呼び名) あがはらの叔父が言っていた。

・おくさんが「天のむりぶしや・・・にのふあぶしみあて」と歌いだす。

・(太陽は休むけど保良川の水は休まないという俚謡を聞く)

「アガス° チダヤ ヤスムスガ(あがる太陽は休むが) ボラガー(保良川) ノミズ(水) ダヨ ヤスムティノコトヤニャンヨ(休むことないねー)」

・ウシウマサダチィ。ちばん上が牛、真ん中が人間、下が馬を連れて秋にのぼる三つの星、サダチィは連れていく。(最初に三つ星が横に並んだ図を見せるとちがうとD2さん。縦にすると、そのとおりであると確認できた。明確に空き、オリオン座三つ星が縦に三つ並んでのぼってくる様子を自ら見て覚えていた。)

・つきす 月。チダ 太陽。 プス 星。シャークプス

●池間島前里、E3さん(前里出身、昭和11年生まれ)

・アカフナイ、アカフナイフス、あかく(あかるく)になっていく。魚釣って、あれあがたらしくわなくなる。(明けの明星のことをアカフナイフス)

・七つの星。名前を思い出せない。

・ンマノファプス。ひとつで明るい星。

(見えた方角を聞くと、北の方角であった。ニヌファブシ(フス)と混乱しているのかどうか?)

(写真右 池間島の漁港)



⑬池間島(11月23日)

●「わが池間島」の著者「伊良波盛男さん」(池間島出身)の話

・「ガマ」は、沖縄本島では洞窟という意味。池間では洞窟を意味しない。

- ・「ぐわー」が沖縄本島では、「小さいものを呼ぶときの愛称」
 - ・ガマは池間では、「かわいい 小さい」 たとえば恵子がまは、恵子ちゃんと言う意味。おじいがま…ばかにしてガマ
 - ・池間では洞窟は「アグ」
 - ・プスガマタと言え、群れている星。小さな星たち
 - ・おばあに畑で伝えなければいけないと歌を伊良波さんが聞くが歌ってくれない（北尾注：というほど、歌を聞いて録音しては難しい）
 - ・伊良波さんはシマ・ユイの儀式に出たことがある。名前を入れた紙が七回出てきたらー T . . . 正 と下記、七回出てきた人がフヅカサ（いちばんのつかさ） 2回目に7回出て聞いた人がアーグシャ
 - ・アーグシャがアーグ（歌）を歌う。山城マサヨ 昭和7年生まれ 入院中
 - ・昨日、アカフナイフスをむぬすーの佐渡山利雄さんから聞いたという話をした。池間では、プスと言わない。フス、フス
 - ・大神島のFさんを紹介してくださる。電話をしたが不在。
- （写真右 右から伊良波さん、宮地さん、北尾）



⑭宮古島市久貝（11月23日）

- F2さん、池間島出身、昭和36年生まれ、カンカカイ（かみがかり）のむぬすー
- ・アーグにある「にぬふあんまちた にぬふあ 北の・・・」にぬふあぶし北極星 シマ（母）チタ（太陽）（歌の録音はさせてもらえない）
- ・んまちだ お月
- ・うやきやって帰る…という話は出たが、ウヤキプスは伝えていない
- ・ニイラティダ あの世の太陽
- ・池間島はふたつの島からなっていた。イーヌブ（入り江） 橋の工事で稚魚がいなくなった。
- ・同席された神主さんが、紫微らんか（しびらんか）北斗七星を話された。
- ・ニヌファンマチタ 北のほうのおかあさん 北極星と私は思うと言って歌われた
- ・多良間のペガサス、四角形の星について家を建てる・・・という話で、歌詞をみながら神さまに聞かれたりしてきたが不明・・・とF2さん
- ・もっと星のことを勉強しなければ・・・とF2さん
- ・那覇へ行くとき、星がふってくるように（聞き間違い？）かがやき、船をイメージ・・・

(以上、伝承としての星は伝え聞いていなかった)

⑮宮古島市下地（11月24日）

●宮古島市下地、G1さん（上地出身、昭和4年生まれ）

- ・寝る前に、必ず星を見る。星のことをプス。テンヌプスをミヤギミニ、私の心もきれいに。
 - ・ニノファブス、どのこと？ ニノファブスよく見て、むかしのおばあに。トラノハは、台風、風くる。
 - ・テンノフスめあて、ニノファブスと言ったら、人間の命すくったかみさま。天のプス、にのふあぶすばめあて。自分を生んだ子は親を目当てに生きていく。わんなちやるうやや・・・宮古の人は、ニヌファにわるいものは捨てない。
 - ・ンマ、宝をくれる。（ンマノファブスという星の名は、ない）（ウヤキブスも聞いたことない）にのふあぶす、めあてにして。
 - ・ニノファ ひかる星。一番見える。
 - ・朝の星について聞くが星を見る暇がないという答えが返ってきた。
 - ・ゆうべ、ぷすがながれたじゅー・・・流れ星
 - ・つきゆー 月
- (写真右 右から北尾、G1さん、宮地さん)



●宮古島市久松の港、城辺出身（昭和13年生まれ、実家は農業で後に街中へ）

- ・北東、北西かな、ニノファと言う。ニノファフシって歌があったから。わんなみえてはにぬふあふし、長男。めあて。
- ・ユス° フォープス 、 ユス°（夕飯） フォー（食べる） プス（星） 夕方なったら見える。（音声が変わりにくく、宮古島出身の友利健氏に録音を聞いてもらおうと、「ユス° フォープス」とのぼすのが正確かな。録音でもそう聞こえますとのこと）
- ・シカクプスと聞こえたので、4角形に配列した星と思ったが、「しさく、ししゃくぷす」であった。しかくとあとひとつ星があつて、ししゃくぷす。柄杓のかっこう。時間によってどこにあるかわかる。
- ・ぷすをみて、むかしの人は、この星はここにくる。北東は、北西か、にのふあというわな。ふしがよるなったら、ここらへんにすぐく星があるよ。それが満潮、干潮。月を見ればいま干潮、満潮わかる。
- ・宮古のことばで、にのふあのふしって歌があったから。
- ・あかるいフシは、ここらへんにあつたよ。いまでもくもりでないときれいにみえる。ゆうごはんをたべる星というふうに宮古のことばでは。だから宮古では、方言ではゆうごはんた

べるのをゆずと言うわな。ゆずふおぶしと、ふしと言って光った星ある。星だからプスというんじゃない。ゆうがたなったらそれがひかって見えるから。(ゆうごはんたべるころに見えるから。

・3つも4つも。4つならぶ星。4つにすこしこれして5つか。ししゃくぼしとして、ししゃくの恰好にみえるわけさ。ししゃくぼしとしか。しさ(しゃ)くぷす。ぷす。だいたい動くからその時間によってはどこにあるかわからん。おおきいけど、光っているからめだつわけさ。市内では空を見ないので。電気ついて。

・「ししゃくぷす」であった、とよんでいるのがあった。いまでもみえるかもしれんよ。ししゃく、ししゃく、みずをくむししゃくがあるでしょ。4つあって。ひとつすこしはなれてあったからそうよんだのではないかな。

(2) 調査データから、今回の科研の目的に沿った天文民俗・天文考古および認知天文学的な分析・考察

①古代から認知の対象であるプレアデス星団についての宮古島における分析・考察

沖縄本島の調査研究と同様、群れ星がプレアデス星団を意味することは確実であるかどうか、宮古島においても、次のような点に留意して、調査データから分析する。

- ・群れ星がプレアデス星団を意味するケース
- ・プレアデス星団を意味するとは限らないケース(プレアデス星団を意味するケースもある)
- ・プレアデス星団を意味するとは限らないケース(プレアデス星団を意味するケースを認識していない)

沖縄本島の分析において沖縄本島までの分布図を掲載したが、宮古・八重山地区を含むと次のようになる。(次ページの図)

分布図のように、従来の研究において、群れ星のグループの星名はプレアデス星団を意味するとかんがえていたが、本調査においても次のように、プレアデス星団特定のものを意味していなかった事例を記録した。

事例1 宮古島市久松地区、D1さん(昭和25年生まれ、松原出身)

ムリプス(群れてるかたまり)(ひとつかいくつもあるのかはっきりとしない。特定の星とは認識していない))である。

事例2 宮古島市来間島(くりまじま)、B1さん(昭和7年生まれ、女性、ユウジャス、

来間島出身)

ンミブシ (ンミ: 群れ、 星がいっばいつまっている→ンミブシ) (いっばいある) (北尾注: したがって、プレアデスのもではなく、プレアデスもまた、他のいっばいあるのもみなンミブシ)



(図 宮古・八重山地区を含んだプレアデス星団の星名の分布図)

②八重山・宮古の天体認知の表現としての分析の方法

沖縄本島の分析において、次のような星の形状等の特徴の認知にもとづいて星名形成がなされたと記した。図を再掲する。

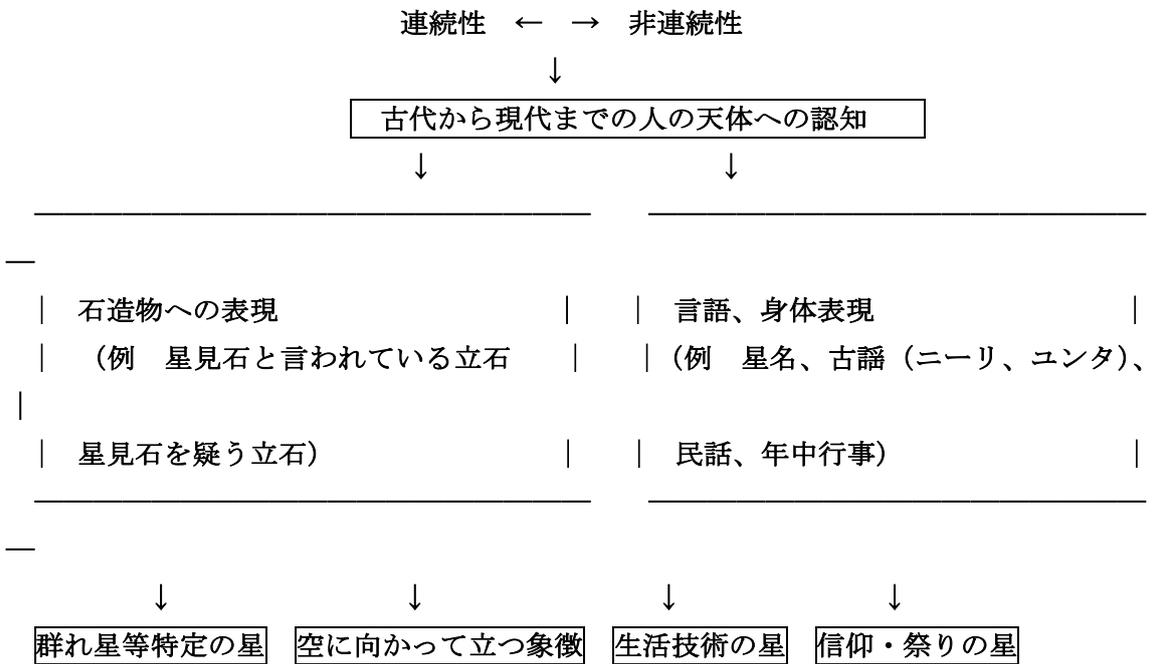


しかしながら、単に星名だけから人類の星の認知を論じるだけでなく、星名をひとつの表現として捉えることが必要である。

即ち、下図のように天体の認知を表現したものとして、星名を捉える。また、星名だけでなく、古謡、年中行事を身体表現として捉える。

さらには、星見石を疑う立石（城辺の神の杵、人頭税石（ふばかりいし）、星見石と言われる立石を古代からの人の天体への認知の石造物への表現として捉える。

そして、古代から現代までの人の天体への認知を、現代まで連続したものとそうでないものに分けて考える。



したがって、単に星名形成、星見石を疑う立石と分けて論じるのではなく、人類の天体への表現として、それぞれのデータから天文民俗・天文考古および認知天文学的分析・考察

を行なっていきたい。

③八重山・宮古の天体認知の表現としての分析の方法にあたって留意すべき視座

天体認知を天体（星、月、太陽）だけで行なうのではなく、空（星空）を海、山、川等の自然環境と連続したものとして捉える。

海

連続↑ 境界線 水平線

空（星、月、太陽）

←星(天体)だけを見るのではなく、山、川、海等と合わせた景観として。

連続↓ 境界線 地平線

山、野、川等

この境界線（例 星の出、星の入り等）が生活技術としての星（天体）に重視される。

④宮古の天体認知の表現としての星名伝承

星名は、ひとつの人間の認知の表現である。認知の表現として、宮古で特徴ある星名についてウヤキブス、ウシウマサダチを事例に考える。

●事例1 ウヤキブス

1980年代に南西諸島のアンケート調査で、南十字の星名として、ウヤキブス（沖縄県平良市字松原（現・宮古島市））を記録した。ウヤキは「金持ち」、ブスは「星」で、金持ちの星という意味である。しかし、それだけの伝承資料では確定できず、本調査で確定をめざしていた。

11月の調査で、宮古島市松原のD3さん（昭和14年生まれ）を訪ねた。D3さんは、「おやじがウヤキブスに夜明け手をあわしていた。ウヤキブスといって夜明けに手をあわして。あやじなんかやっていた。ウマノファブスとウヤキブスはいっしょ」と伝えていた。

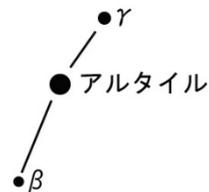
D3さんによると、朝早くひとつ光っている星がウヤキブスであり、ウヤキブスは南十字を意味しなかった。ただ、ウマノファとウヤキブスが同じという点はアンケート調査と共通していた。

一方、石垣島のチンダラ節において、「織女と牽牛」という伝承事例を加えて、「南十字」「織女と牽牛」「明けの明星」の3つの候補が出た。ひとつの星名を複数の星を意味するケースはある。(例 一般的にプレアデス星団を意味するムヅラ(六連星)が、宮城、岩手のムヅラがオリオン三つ星(小三つ星)を意味する等) ウヤキブスも、「南十字」「織女と牽牛」「明けの明星」の3つとも意味するのであろうか。

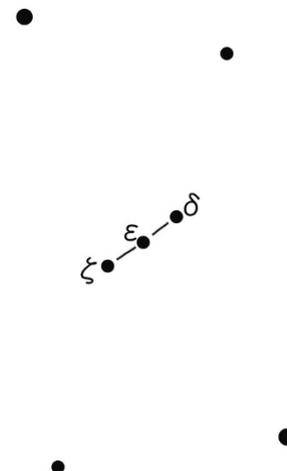
●事例2 ウシウマサダチ

1980年代に実施したアンケート調査においては、アルタイルとβγの星名として、ウスウマサダチブス(牛馬サダチ星)を記録した。牛と馬を連れて(サダチ)いる星で、サダチとは「連れる」という意味。沖縄県平良市(現 宮古島市)に伝えられていた。

ところが、11月にD2さんから記録したウシウマサダチは、いちばん上が牛、真ん中が人間、下が馬を連れて秋にのぼる三つの星であった。同じ宮古島でオリオン座三つ星とわし座アルタイルとβγの見方を記録することになった。



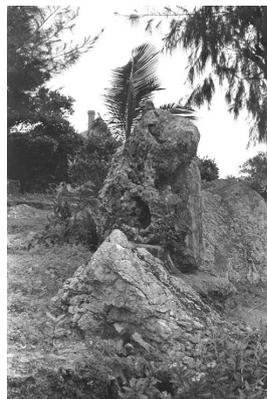
平良↑



保良↑

⑤天体認知の表現としての星見石

星見石を、次のように分類して考察を進めたい。即ち、石垣島の星見石をほんとうに星見石としていつどのような形で機能していたか検証をするために星見石として機能していたと断定せずに、「星見石と言われる立石」として考察を進める。また、宮古島の星見石と石造物への表現を「星見石を疑う立石」として考察を進める。



i) 星見石と言われている立石

石垣島、竹富島等、八重山に設置されている星見石を、「星見石と言われている立石」と呼ぶことにする。(写真右 石垣島旧石垣村) (写真左 竹富島)

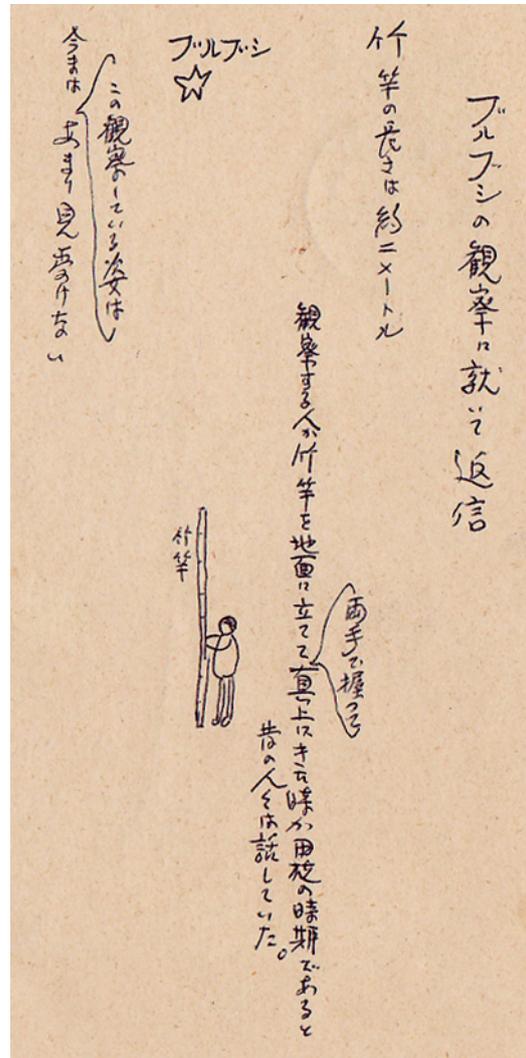
石垣島については、喜舎場永珣氏、竹富島については、上勢頭亨氏等をはじめとする先行研究があり、星見石として捉えられている。しかし、本当に星見石として機能していたのかどうかは議論しなければならない点が残っている。空に向かって立つ「立石」について、人間が空に向かって表現した石造物として捉え、それを最初から群れ星を認知して星見石として設置されたのかどうか、考察を進めていきたい。

そもそも、日本全体での星で季節を知ることが目的とした伝承で石造物を用いる例はない。いわゆる地平線、水平線に現れるとき、まんどき(南中)で目標として機能するからである。西表の事例においても、右図のように竹竿によって観測されていた。

ii) 星見石を疑う立石

宮古島において、荷川取の人頭税石、城辺の神の杵という八重山の「星見石と言われている立石」に似ている立石が設置されている。それらが星見石という機能を果たしていた可能性については1979年、八重山の星見石と言われている立石に出会って以来のテーマであった。しかし、そのテーマについて黒島為一氏の研究があったものの星見石という断定はなされなかった。そもそも星見石しいてはプレアデス星団との関連だけで論じては本質を見失う危険性がある。目的は、星見石という可能性を論じることではない。立石を空に向かって設置されているシンボルとして捉え、それが後に神の杵、人頭税石として語られたという可能性も排除せずに考察を進めたい。

1979年、石垣島の星見石(前項の写真)を見た。一方で、極めて似て空に向かって立つ人頭税石と似ていること、それらが星見石であるかあるいは違うものを意味したのか原点から考察していく必要を感じた。「星見石を疑う立石」が星見石と機能したかどうかは後の測定の考察によって明らかにしていくとして、星見石であってほしい気持ちを抑えて言えば、「星見石を疑う立石」さらには「星見石と言われている立石」も、後の時代に、神の杵や人頭税や星見石が加わっただけで、もとは全然違うものだった、何かのシンボル、コス



モロジューというか世界観、自然観、ことばを変えれば、宇宙に対する情念、包括的な認知の表現までさかのぼらねばならないのでは・・・という可能性を感じる。

(写真 宮古島の神の杵 (道路側、ユタの進言により移動していない)

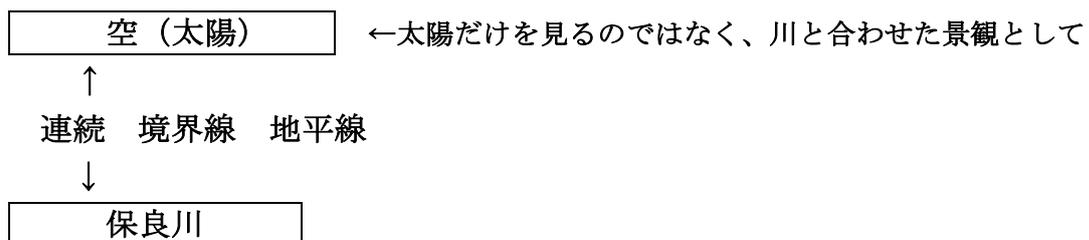


⑥天体認知の表現としての俚謡

俚謡も天体認知の表現であり、また、俚謡を通して社会で共有され世代を超えて伝えられた。宮古島保良で伝えられている歌は、空(太陽)と川との心意のなかの連続性を意味しており、星(天体)だけを見るのではなく、山、川、海等と合わせた景観として、捉えたことを示している。

「アガス°チダヤ ヤスムスガ (あがる太陽は休むが) ボラガー (保良川) ノミズ (水) ダヨ ヤスムティノコトヤニャンヨ (休むことないねー)」

下記は、保良を事例とした天体と他の環境の連続性の図である。



楽譜 宮古島保良 太陽の歌

採譜者 北尾正子

ア ガ ス ° チ ダ ヤ ヤ ス ム ス ガ
 ボ ラ ガ ー ノ ミ ズ ダ ヨ
 ヤ ス ム テ イ ノ コ ト ヤ ニ ャ ン ヨ

(3) 今後の研究への発展と課題

① 調査データの積み重ね

天体への認知の構造を明らかにしていくために、星名伝承のデータの数を増やしていくことがまず必要である。そして、古代から現在まで認知の連続性と非連続性を具体的に明らかにしていくにあたって、時間軸での認知、空間軸での認知、地平線、星空と海との境界、星、山 海等と連続した自然環境の認知として捉えていくことを今後の課題としたい。

② 多良間島のニ一り等の調査研究

広く歌われたが今は多良間島に粟摺り歌として残っているだけであるニ一り等、研究課題がある。

星の歌、伝承から空間認識、時間認識を読み取り、さらには、ことばで表現されること以外での表現(石造物など)をひとつの表現として捉え、研究を進めていきたい。

③ 古代から現代にわたるまでの天体の認識、星名伝承形成を明らかにするにあたって南西諸島の位置づけ

日本の星の基層文化の研究にあたって、奄美大島、喜界島より南、即ち南西諸島の星名伝承は、吐噶喇列島以北と大きく異なっている。それらの相違点は、日本の星の認知構造について発展させていくポイントとなる。特に、先行研究、星名記録のデータ数が絶対的に不足しており、現地調査に比重をおきたい。

また、次の点に留意したい。

・南西諸島を宮古、石垣、与那国で切れたものとしてではなく、連続したものとして捉える。台湾の離島、ポリネシアを含めて、星名形成、星空の認知について、データ数を増やし、日本の星の基層文化の構造を明らかにしていく。

南西諸島の星名伝承の研究、しいては星を認知し、文化形成に至る構造の解明にあたって、未調査地域、データがアンケート調査でしか記録していない地域がなお多数存在し、調査を重点的に進める必要がある。既に調査を実施したところも、再調査、追調査を続け、データを蓄積していく。

.....
(話者名一覧表・・・個人情報につき取り扱い注意)

- A 1 : 伊佐喜作さん、昭和6年生まれ、大神島出身
- A 2 : 西里勇さん、昭和8年生まれ、池間島出身
- A 3 : 与那嶺盛治(よなみねせいじ)さん、昭和2年生まれ、池間島出身
- B 1 : 州鎌和子(すがまかずこ)さん、昭和7年生まれ、来間島出身
- B 2 : 仲松儀雄(なかもつよしお)さん、昭和14年生まれ、来間島出身
- B 3 : とみやまさん、昭和17年生まれ、佐良浜出身
- C 1 : 平良恵勇(たいらけいゆう)さん、大正4年生まれ、上野村宮國出身
- C 2 : C 1の長男、平良恵俊(けいしゅん)さん、昭和21年生まれ、上野村宮國出身
- C 3 : 平良恵信さん、昭和11年生まれ、仲間出身
- D 1 : 長崎富夫さん、昭和25年生まれ、松原出身
- D 2 : 下地金吉さん、昭和5年生まれ、松原出身
- D 3 : 松原信勝さん、昭和14年生まれ、父親は松原出身、父親の仕事の関係でポナペで生まれる
- D 4 : 洲鎌直子さん
- D 5 : 平野さん(ユタ) 85, 6歳
- E 1 : 伊良波淳世さん、昭和25年生まれ、池間前里出身
- E 2 : 砂川清一さん、宮古島東原(あがはら)出身、大正15年生まれ、(おくさん昭和4年生まれも話に加わる)
- E 3 : 佐渡山利雄さん、池間島前里出身、昭和11年生まれ
- F 1 : 狩俣えいきちさん、大神島出身、大正生まれ、(96歳を教えている)
- F 2 : 浜川綾子さん、宮古島市久貝在住、池間島出身、昭和36年生まれ、カンカカイ(かみがり)のむぬすー
- G 1 : 友利みつこさん、上地出身、昭和4年生まれ